

現計画（2018～2023）における進捗について

資料 2-1

重点 取組	課題(計画 策定時)	主な取組 (計画策定時)	H30～R5における取組実績(実績数値は最新のもの)	現状と次期計画 における方向性	参考データ
1	脳血管疾患 【脳卒中の予防】 ○ 脳卒中予防のために、高血圧、喫煙、肥満、糖尿病、脂質異常症、不整脈等の危険因子の早期発見が重要であり、このためには特定健康診査の受診率の向上が重要です。 また、ハイリスク者への適切な保健指導の実施と必要に応じた受診勧奨及び治療継続の支援が必要です。	○ 死亡率の低減及び重症化予防のため、早期発見・早期治療の重要性についての周知を図っていきます。	<p>【釜石医師会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定健康診査二次検査実施への協力 ・脳卒中患者に係る各種調査事業実施への協力 <p>【釜石薬剤師会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・釜石市禁煙チャレンジ事業への協力 ・薬局窓口での患者さんへの啓蒙活動 ・釜石医師会学術講演会等への参加 <p>【釜石歯科医師会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中発症後の口腔機能の回復への取組研修会実施 <p>【県立釜石病院】※他の脳血管疾患の項目に共通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月28日のいわて減塩・適塩の日に病院食での減塩メニューの提供 ・急性期病院との連携強化 ・脳卒中地域連携パスの見直し、運用の検討 ・脳血管疾患等リハビリテーションの実施 ・出張健康講座の開催 2地区(R2 参加人数35人) ・オープンホスピタルにて味噌汁の塩分体験実施(H30) <p>【県立大槌病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病予防健診の実施 ・脳卒中リハビリテーション看護認定看護士による施設等への出前講義の実施 (R2 3施設5回実施) ・H30.10より地域包括ケア病床導入(25床で開始H31.2より30床に増床)により在宅復帰に向けた準備として、対象者への積極的なりハビリの介入実施 ・地域包括ケア病床の安定的運用に伴う、対象者への積極的なりハビリの介入実施 <p>【独立行政法人国立病院機構釜石病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中予防の知識の啓蒙、血液検査などを通じての高脂血症や腎機能障害の把握などを通じての脳卒中の予防 ・講演会を頻回に開催する事は困難であるので、ポスターの提示や資料の配付(禁煙・塩分制限・脂肪の制限など)などによる脳卒中の予防・治療の関する情報提供を行う <p>【釜石リハビリテーション療法士会】(以下の項目に共通)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・釜石市包括支援センター 「いきいき100歳体操」交流会への講師派遣 ・大槌町包括支援センター 「お元氣教室」への講師派遣 ・釜石保健所との共催による「高齢者の誤嚥性肺炎について」に係る講演会の開催 <p>【釜石大槌地区行政事務組合消防本部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「岩手医科大学医学部」の講師を招き、救急救命士、消防本部通信指令担当職員を対象にした「脳疾患傷病者救急患者対応勉強会」の開催。(R3.3.25) 	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・釜石圏域の脳血管疾患(脳卒中)の年齢調整死亡率は県内の圏域別では男性はがワースト1位、女性はワースト2位となっている。 ・特定保健指導実施率は県平均を下回る。 ・健康診断の受診状況は全年齢階級で健診受診率が岩手県平均を下回る。 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これらから、脳卒中の予防に継続して取り組む必要がある。 	<p>・令和2年の脳血管疾患(脳卒中)の年齢調整死亡率(人口10万対)</p> <p>【男性】</p> <p>全国93.8、岩手県147.2、釜石圏域199.6(ワースト1位)</p> <p>【女性】</p> <p>全国56.4、岩手県84.3、釜石圏域121.2(ワースト2位)</p> <p>・令和3年度の特定保健指導実施状況</p> <p>【岩手県】</p> <p>40～74歳19.1% 40～64歳19.4% 65～74歳17.0%</p> <p>【釜石圏域】</p> <p>40～74歳12.7% 40～64歳12.9% 65～74歳11.1%</p> <p>・令和3年度健康診断の受診状況</p> <p>【岩手県】</p> <p>40～74歳60.6% 40～64歳62.8% 65～74歳51.1%</p> <p>【釜石圏域】</p> <p>40～74歳57.0% 40～64歳59.6% 65～74歳46.1%</p>

現計画（2018～2023）における進捗について

資料 2-1

重点取組	課題(計画策定時)	主な取組(計画策定時)	H30～R5における取組実績(実績数値は最新のもの)	現状と次期計画における方向性	参考データ
1	脳血管疾患		<p>【釜石市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AIを活用した受診勧奨(R4.7,537名)の実施、医師会と連携した受診勧奨の実施、休日・早朝・夜間健診の実施。禁煙チャレンジ事業(釜石薬剤師会との連携)(R4.12月、1月計2回開催:7人参加)、健診(特定・後期・一般)会場にて血圧高値者への受診勧奨及び追跡調査(R4.250名) ・令和3年度後期高齢者健康診査にて血圧高値だった方への訪問指導(保健事業と介護予防の一体的実施事業・ハイリスクアプローチ): R4.42人 ・医師をアドバイザーとした脳卒中撲滅プロジェクトの実施(毎月1回開催) ・脳卒中予防のため市民公開講座開催(1回開催 R4.58名) ・働き世代を対象とした事業所での健康講話の実施(R4.11事業所 120人) ・健診会場やワクチン集団接種会場での減塩に関する普及啓発 ・市広報紙へ脳卒中予防に関する特集記事・家庭血圧測定の特集記事掲載 ・高校生を対象とした健康講座(血圧の内容含む)の開催(R4.1回 86人) ・栄養相談(R2:16名)、生活習慣改善教室(H30) 糖尿病予防教室:4回、延べ参加者数:31人、運動教室:6回、延べ参加者数:39人・減塩チャレンジ教室:2コース3会場、6回、延べ参加者数:71人 ・生活応援センター保健師による取り組み(H30) 減塩及び血圧自己測定等の普及啓発、地域からの依頼による調理実習や生活習慣改善教室 ・減塩取組み強化期間(H30.12月～3月)食生活改善推進員による塩分測定・商業施設でのキャンペーン、 ・普及啓発(H30)(減塩グッズ揭示、チラシ配布、HP・広報、横断幕の設置、減塩モニターを使用した塩分測定)、市民公開講座(S&B食品)(塩分摂取アンケート938人、血圧測定91人、塩分測定169人) ・いわて減塩、適塩の日に併せた減塩の普及啓発を実施する。 ・食生活改善推進員、栄養士会等と連携を図りながら、事業を展開する。 <p>【大槌町】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定健診は、休日を含む日程構成や複数健診の同日開催など、受診者へ配慮した。また、実施場所を、密になりやすい小さな集会所等を避け、間隔の取りやすい体育館とするなど、コロナ禍に配慮し来場しやすい環境を整えた。 <p>【R3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康講座 1回 参加者2名 ・健康相談 12回 延べ参加者19名 ・普及啓発 生活習慣病月間に合わせ、商業施設で健康づくりに関する掲示等を実施 ・特定保健指導(H30) 特定健康診査の結果により健康の保持に努める必要があるものに対し生活習慣病の改善を促すための支援を実施 ・検診結果説明会(H30) 検診結果の説明および保健指導、栄養指導を実施 11会場 15回 197人参加 		

現計画（2018～2023）における進捗について

資料 2-1

重点 取組	課題(計画 策定時)	主な取組 (計画策定時)	H30～R5における取組実績(実績数値は最新のもの)	現状と次期計画 における方向性	参考データ
1 脳血管 疾患	【脳卒中の予 防】 ○ 危険因子 の中でも、高血 圧の予防につ いては、家庭で の血圧測定 の推奨とともに、 減塩や野菜・ 果物摂取量の 増加、日常に おける歩行数 の増加や運動 習慣の定着、 禁煙・受動喫 煙防止環境の 整備、生活習 慣病のリスクを 高める量の飲 酒の抑制など の一層の取組 が必要です。	○ 住民等を 対象とした健 康チャレンジ 教室やヘルス アップ教室(運 動指導事業) のほか、市民 公開講座の充 実を図ってい きます。 ○ 減塩・適塩 についての普 及啓発活動と ともに、高血 圧予防につい ての健康相談 や栄養教室の充 実を図ってい きます。	【金石医師会】 ・減塩、適塩についての普及啓発活動への協力 ・岩手医大内科 腎・高血圧内科分野、旭浩一教授による学術講演の開催。(R4.令和5年2月28日開催、岩手県委託事業～兼糖尿病性腎症 疾病管理強化対策事業)	【現状】 ・飲酒リスク保有者の 割合及び睡眠リスク保 有者の割合が高い。 【方向性】 ・このことから、継続し て発症予防に取組む ことが必要である。	・令和2年の飲酒リスク保有者 割合(いずれも県平均より高 い) 金石市17.2% 大槌町16.6% ・令和2年の睡眠リスク保有者 割合(いずれも県平均より高 い) 金石市23.7% 大槌町28.2%
			【金石薬剤師会】 ・金石市健診時の血圧高値者への受診勧奨事業(案)への協力(金石市保健師と薬剤師との多職種連携) ・金石市禁煙チャレンジへの参加、協力(H30) ・薬局窓口で家庭血圧の推奨、減塩の進め、啓蒙活動(H30)		
			【県看護協会釜石支部】 ・看護の日イベント5月21日(土)釜石イオン ・内容 看護協会についてのパンフレット配布 ・健康相談会を実施(H30.5.12 来場者70名) R5は健康相談・血圧測定等については感染対策にて中止		
			【県立大槌病院】 ・外来栄養食事指導の実施		
			【独立行政法人国立病院機構釜石病院】 ・塩分摂取の軽減と食事指導による高血圧の予防・治療 ・塩分摂取・カロリー摂取量の軽減と管理栄養士による食事指導並びに内服による血圧管理を継続 ・市民公開講座での啓蒙(R2) ・市民公開講座を開催し、脳や脳血管障害の障害や疾患について説明し、予防や早期発見のコツを講義(H30)、減塩や脳卒中予防のた めの栄養学や生活のコツについて講義。(R1) ・外来診療を通じて血圧のコントロールや減塩の重要性について説明した。(H30) ・管理栄養士の協力も得て、脳血管疾患の予防のための食事指導を継続した。(H30) ・毎年、様々なテーマで市民公開講座を開催しており、講演内容のみならず各種パンフレットなども配布して、様々な情報を提供するように努 めている。また新型コロナウイルス感染対策としてオープンスペースでの開催と感染予防策を徹底している。(R2)		
			【せいづつ記念病院】 ・健康診断における受診勧奨(H30)		
			【釜石のぞみ病院】 ・施設内禁煙の実施→敷地内禁煙への対応(H30)		
			【釜石リハビリテーション療法士会】 ・介護の日のイベント参加 ・感染予防を考慮して、地域活動はほとんど行っていない。(R3)		
			【釜石大槌行政事務組合消防本部】 ・脳出血、脳梗塞などの脳血管障害梗塞は時間経過により症状が重篤になるほか、後遺症が残ることが多い疾患であるため、異変(言葉の 呂律が回らない、手足のしびれ及び半身の脱力等)が生じたことを家族等が気付いたら救急要請するよう「心肺蘇生法」の講習会で呼び掛 けている。 ・急激な頭痛と嘔吐等が出たら直ぐに救急要請する事も講習会等で市民に呼び掛けている。(R2)		

現計画（2018～2023）における進捗について

資料2-1

重点 取組	課題(計画 策定時)	主な取組 (計画策定時)	H30～R5における取組実績(実績数値は最新のもの)	現状と次期計画 における方向性	参考データ
1 脳 血 管 疾 患			<p>【釜石市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市食生活改善推進員の養成・育成 ・市食生活改善推進員を対象とした減塩メニューの調理実習と、地域における普及活動の推進 ・12月～3月「市減塩取組強化期間」内の減塩に関する普及啓発 ・健診時血圧高値者に対する健診会場における受診勧奨及び電話等による結果確認 ・減塩チャレンジ事業(R4.11月2回コース開催:16人参加)・減塩チャレンジ事業(R4.12月2回コース開催:21人参加) ・通いの場等を活用した高血圧予防教室(R4.38回開催、200名参加)、保健事業と介護予防の一体的実施事業・ホビュレーションアプローチ(R5.15回程度実施予定) ・各地区生活応援センター保健師による健康相談、健康教育(R2 市内8センターで実施) ・運動教室の開催及び活動支援(R2 市内8センターで実施) ・働き世代を対象にした減塩教育の実施(R2 29名/2店舗) ・市内スーパーを対象にした実態把握調査(R2 7店) ・食生活改善推進員・食育アドバイザーの養成(R2 10名/6回) ・食生活改善推進員の育成(R2 研修会1回開催) ・日本食生活協会事業「世代別に取り組む生活習慣病予防のためのスキルアップ事業(働き世代)」の実施(R2 30名/2回) <p>【大槌町】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定健診結果が血圧高値にも関わらず未受診の方に、医師の講話を実施。13名参加 ・町で養成した運動普及推進員によるストレッチ教室において、減塩等の食生活指導、講話を実施。 <p>【釜石市社会福祉協議会】(H30)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・減塩・適塩調理教室の開催(年4回) ・岩手県栄養士会釜石支部と協働し、市内各地で調理教室を実施 <p>【釜石保健所】(糖尿病の予防も同じ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.企業への健康経営の取組支援 <ul style="list-style-type: none"> ・R3健康経営取組状況アンケートの結果報告及び健康経営についての情報提供、管内企業・団体延べ1328部 ・企業対抗健康づくりチャレンジマッチの実施 3企業延べ7回104人、企業対象健康づくり教室の開催 3回125人 2.食環境整備 <ul style="list-style-type: none"> ・外食栄養成分表示登録店の推進 新規登録5店舗(累計65店舗)・減塩リーダー養成講座 3回64人 ・いわて減塩・適塩の日キャンペーン 8回226人 ・特定給食施設指導 個別指導 7回、集団指導 5回延べ60人、健康的な食事(スマート和食)推進マスター養成事業 e-Learning研修11人受講 3.健康づくり活動支援 <ul style="list-style-type: none"> ・健康管理機器(体組成測定器・塩分測定器)の貸与 17回625人、健康づくり出前講座の実施 ・脳卒中患者状況調査(H27-29年 沿岸広域振興局実施)結果と脳卒中予防、FASTについての周知(H30)、減塩リーダー養成講座の開催 H30 2回69人、喫煙・受動喫煙対策に関する出前講座 H30 8回369人 ・適塩・野菜たっぷりヘルシーメニュー推進事業(脳卒中予防を中心とした生活習慣病・健康づくりに関する実践的内容の出前講座)の実施 H30 19回1129人 ・健康応援!街頭キャンペーン(減塩、喫煙対策、生活習慣の改善普及啓発)の実施 H30 12回866人 ・外食栄養成分表示店の拡大と飲食店への減塩グッズ等の設置 H30 11店 ・特定給食施設指導の実施 H30 17施設 		

現計画（2018～2023）における進捗について

資料 2-1

重点 取組	課題(計画 策定時)	主な取組 (計画策定時)	H30～R5における取組実績(実績数値は最新のもの)	現状と次期計画 における方向性	参考データ
1 脳血管疾患	<p>【脳卒中の医療体制】</p> <p>○ 脳梗塞に対するt-PAによる脳血栓溶解療法の実施可能な医療機関の確保が求められています。</p>	<p>○ 急性期における専門的な治療を担う医療機関の機能充実と医療連携体制の整備を促進します</p>	<p>【釜石医師会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門医療機関とかかりつけ医との連携や脳卒中予防のための日常診療のレベルアップを目的とした研修会を計画するも、「コロナ禍」の影響により、実施を見送った。(R2, 3) <p>【釜石歯科医師会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NST委員会(県立釜石病院 R5は9月を目標) <p>【独立行政法人国立病院機構釜石病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外来通院患者の診療の中での脳卒中急性期診療・入院対応などを行っている ・塩分摂取の軽減と食事指導による高血圧の予防・治療、市民公開講座での啓蒙(R2) <p>【せいいつ記念病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健診にての心房細動の早期発見及び抗血栓薬加療 ・二次健診における頸動脈エコーにての頸動脈硬化検査 ・高齢者の脳梗塞症に関しては、家族同義の元、当院で加療も行っている。重症や脳出血、若年層に関しては、県立大船渡病院への転送をお願いしている。 <p>【釜石大槌行政事務組合消防本部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急搬送状況 <p>令和4年度「脳卒中」と診断された救急搬送傷病者は、総搬送人員2,290人中346人(男185人、女161人)で、そのうち釜石医療圏の医療機関に収容した傷病者は148人で、管轄外医療機関へ搬送した傷病者は198人(県立大船渡病院197人、その他管轄外医療機関1人)であった。また、脳疾患傷病者の内訳はくも膜下出血22人、脳梗塞118人、脳出血48人その他158人であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・釜石医師会の学術講演会や県立釜石病院との症例検討会への積極的な参加により、救急隊員としてのスキルアップを図る。 ・脳疾患救急患者搬送への取組み(R3) ・令和3年4月から「県立釜石病院脳外科」の診療体制縮小に伴い、県立釜石病院脳外科医師、看護師長、事務担当者との協議のうえ、「県立大船渡病院への脳疾患系傷病者の搬送要領」を策定。(R3.3.20) ・脳疾患傷病者のドクターヘリでの搬送事案 H30 5件、R2 1件 <p>【釜石・大槌地域保健医療推進会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OKはまゆりネットを活用した専門医療機関とかかりつけ医との連携体制の整備・構築への協力や脳卒中予防のための日常診療のレベルアップを目的とした研修会実施への協力。 	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管内には脳梗塞に対するt-PAによる脳血栓溶解療法の実施可能な病院はない。 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状を踏まえ、医療連携による取組を推進する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・管内の脳梗塞に対するt-PAによる脳血栓溶解療法の実施可能な病院なし

現計画（2018～2023）における進捗について

資料 2-1

重点取組	課題(計画策定時)	主な取組(計画策定時)	H30～R5における取組実績(実績数値は最新のもの)	現状と次期計画における方向性	参考データ
1 脳血管疾患	<p>【脳卒中の医療体制】</p> <p>○ 急性期から回復期までのリハビリテーションを実施する医療機関数が少ないため、一層の拡充が求められています。また、地域のリハビリテーション実施施設等の従事者に対する研修の実施が必要です。</p>	<p>○ 急性期から回復期医療、リハビリテーション、介護サービスの連携を実施するためには、相互に診療情報や治療計画を共有することなどが必要であるため、ICTの活用や合同カンファレンス等による情報交換など医療と介護の連携による取組をさらに推進します。</p>	<p>【釜石歯科医師会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩手県歯科医師会主催の嚥下・リハビリ研修会への参加 <p>【県立大槌病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回復期リハビリ対象患者の積極的な受け入れ ・リハビリの365日提供(R2よりほぼ毎日実施) ・退院に向けた他職種合同カンファレンスの実施(毎週1回開催) ・地域包括ケア病床を活用した在宅等退院に向けたリハビリの介入(R2、3) ・がんリハ研修終了者の活用(R3) <p>【独立行政法人国立病院機構釜石病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急性期状態での入院に対してのリハビリテーションおよび退院指導を行っている ・引き続き急性期医療も含めた脳卒中後遺症に対する治療を継続する予定であり、県立釜石病院の地域連携室とも連携を取り、脳卒中の急性期医療および回復期以降の入院医療をバックアップする予定である <p>【せいいつ記念病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリ対象患者の積極的受入れ ・気仙地域連携パスへの参加 ・同法人内の介護サービス事業所、または、他介護サービス事業所との連携 <p>・地域リハビリテーション広域支援センター事業(コロナ感染予防を考慮し、活動は積極的に行えていない)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中地域連携パスへ参加(H30) ・地域リハビリテーションネットワークを主導(H30) ・地域リハによる地域巡回指導(H30) ・老健施設との連携による通所リハビリ実施(H30) ・訪問リハビリの継続実施(H30) ・簡易脳ドック健診の実施(H30) ・リハビリスタッフの確保活動展開(言語聴覚士を含む)(R1) <p>【釜石のぞみ病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・慢性期医療が必要な患者を継続して受け入れている ・地域連携パスへの参加(R3) ・脳卒中クリニカルパスへの参加(県立釜石病院脳神経外科の診療体制の変更、新型コロナウイルス感染症の影響で運用実績なし)(R2) ・脳卒中クリニカルパスの運用(H30、R1) ・脳卒中地域連携パス 27件(うち当圏域の医療機関との連携27件)(H30) <p>【釜石リハビリテーション療法士会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・療法士対象の研修会開催(脳卒中の患者の股関節の見方)(R30) 	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリの従事者への研修を実施してきたが、新型コロナウイルス感染症の影響で研修が実施できない状況であった。 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このことから、継続して研修等による情報交換や連携の取組を推進する必要がある。 	

現計画（2018～2023）における進捗について

資料 2-1

重点取組	課題(計画策定時)	主な取組(計画策定時)	H30～R5における取組実績(実績数値は最新のもの)	現状と次期計画における方向性	参考データ
2 糖尿病	<p>【糖尿病の予防】</p> <p>○ 糖尿病を予防するためには、栄養、運動等の生活習慣の改善を促す普及・啓発のほか、特定健康診査による糖尿病予備群やメタボリックシンドローム該当者・予備群の早期発見、特定保健指導による糖尿病有病者の増加の抑制が必要です。</p> <p>○ 特定健康診査により糖尿病要治療となった者に対する医療機関への受診勧奨を行うとともに、医療機関への未受診者や治療中断者に対する特定保健指導を徹底していくことが必要です。</p>	<p>○ 糖尿病予防のため、食生活や運動習慣などの生活習慣の改善、肥満の防止などとともに、血糖高値と判定された方などへの特定健康診査及び特定保健指導などにより、糖尿病の早期発見・早期治療を図ります。</p>	<p>【釜石医師会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働者健康安全機構からの委託事業である産業保健センター事業へ会員医師を派遣。職場の健康診断結果を精査、必要に応じ、生活習慣の改善や治療への勧奨を実施。 ※相談件数(R4年度末)～3,382件 	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・釜石市及び大槌町において、肥満リスク、血圧リスク、脂質リスク、血糖リスクが県平均より高い。 ・釜石市と大槌町の腎不全の割合が高い。 ・市町村別医療費割合の高い疾病(中分類)において、腎不全、糖尿病の医療費が釜石市及び大槌町のいずれにおいても1,2位となっている。 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これらから、継続して生活習慣の改善に向けた普及・啓発のほか、糖尿病予備軍やメタボリックシンドローム該当者・予備軍等の早期発見、指導及び医療機関への受診に繋げる必要がある。 	<p>・令和2年の特定検診からわかる生活習慣病につながるリスク保有者(県平均より高い)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肥満リスク保有者割合 釜石市 44.2% 大槌町48.0% ・血圧リスク保有者割合 釜石市75.9% 大槌町75.9% ・脂質リスク保有者割合 釜石市49.2% 大槌町49.2% ・血糖リスク保有者割合 釜石市45.3% 大槌町47.3% <p>・外来医療費 疾病別(中分類)割合(県平均より高い)</p> <p>【腎不全】</p> <ul style="list-style-type: none"> 釜石市11.5% 大槌町9.5% <p>・令和2年度市町村別医療費の割合の高い疾病(中分類)</p> <p>【釜石市】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1位 腎不全 11.5% 2位 糖尿病 8.6% <p>【大槌町】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1位 糖尿病 9.8% 2位 腎不全 9.3%
			<p>【釜石歯科医師会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校歯科医を中心に小学校、中学校での糖尿病と歯科について講話 ・釜石コンパスでの釜石中学校に全身と歯科について講義 ・令和7年度予定の国民皆歯科検診に備えての釜石市民、大槌町民への啓蒙活動 ・学校歯科医を中心に小学校、中学校での糖尿病と歯科について講話をする ・歯周病との関連について患者さんに説明し理解を促進する(R3) ・各歯科医院での歯周治療時に歯科医師、歯科医衛生士より説明(R3) ・院内での歯周病の治療促進のポスター掲示(R3) ・HbA1cの改善に向けての取り組み(R3) <p>【釜石薬剤師会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病性腎症重症化予防を念頭に置いた患者様への啓蒙活動 ・糖尿病性網膜症早期発見のための眼科受診勧奨 ・釜石医師会学術講演会への参加(R2) <p>【県立釜石病院】※ 他の糖尿病の項目に共通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病療養指導チームによる取組 ・糖尿病教室の開催 ・糖尿病透析予防指導 ・フットケア ・糖尿病療養指導 H30 66件 <p>【県立大槌病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病予防健診の実施 ・外来栄養食事指導の実施 ・糖尿病教室の開催継続(R3 4回) ・透析予防指導の実施(R3 29件) ・糖尿病合併症予防(フットケア)の実施(R3 113件) ・糖尿病教室の開催について院内周知し、院内糖尿病教室10回実施(H30.5～3) ・釜石にて糖尿病出前講座(H30.7.23) ・大槌町健康フェスタに参加(H31.2.2) ・地域での健康講座へ参加継続(R1) <p>【独立行政法人国立病院機構釜石病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動療法・食事指導と食事療法、内服薬や自己注射などの指導と糖尿病専門医との連携を図っている、職員健診を始めとする特定健康診査による血糖値の異常などにも指導を継続している <p>【釜石市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾患に限定せず、特定保健指導対象者への保健指導実施 ・血糖、脂質、血圧、CKDIに係る医療機関への受診勧奨 ・各地区生活応援センター保健師による健康相談・健康教育(R3) ・栄養士による栄養相談(R3) ・糖尿病、高血圧症に限定せず、特定保健指導対象者への保健指導実施(R3) ・糖尿病性腎症重症化予防プログラムの実施(R2 実績0) ・運動教室の開催、活動支援:市内8センターで実施(R2) ・特定健診有所見者への受診勧奨通知(R2 判定者:1,069名) ・糖尿病予防教室:H30 4回、延べ参加者数:31 ・糖尿病性腎症重症化予防の取り組み(※R1.6.17:釜石医師会理事会説明(釜石保健所)) ・検討会、対策会議の立ち上げ等(R1)) ・関係機関との協議を重ねながら、糖尿病重症化予防のためのプログラムを検討する。(R1) 		

現計画（2018～2023）における進捗について

資料 2-1

重点取組	課題(計画策定時)	主な取組(計画策定時)	H30～R5における取組実績(実績数値は最新のもの)	現状と次期計画における方向性	参考データ
2 糖尿病			<p>【大槌町】 商業施設(シーサイドタウンマスト)において健康相談会を実施。5回 延べ68名参加 なお、コロナ対策のため小会場にならざるをえない各地区巡回は見送り。 ・糖尿病腎症重症化予防事業(R2)、糖尿病未治療者への受診勧奨 15名(受診率60.0%)、糖尿病治療中断者への受診勧奨 8名(受診率12.5%) ・特定保健指導(H30) 特定健康診査の結果により健康の保持に努める必要があるものに対し生活習慣病の改善を促すための支援を実施 ・検診結果説明会(H30) 検診結果の説明および保健指導、栄養指導を実施 11会場 15回 197人参加 ・糖尿病予防教室の開催 1回 16名(H30) ・糖尿病重症化予防事業(H30) 岩手県糖尿病人証重症化予防プログラムに準じ、糖尿病の重症化リスクがある国保加入者に対して受診勧奨等を実施 受診勧奨 H30 50人(うちさらなる受診勧奨者数 22人) ・糖尿病に関する講話(H30) 健康フェスタにて医師による糖尿病の講話を実施 参加者150名</p> <p>【釜石市社会福祉協議会】 ・イオンスポーツクラブサロンの開催(年52回)(H30) 市・社協・スポーツクラブの協働で、軽運動や運動習慣に関する講話、ウォーキング等を交えた住民交流イベントの定期開催 ・100歳体操の普及(H30) 市と協働し、身体機能の維持及び介護予防に効果のある100歳体操を市内各地で普及。運動習慣の定着も狙い</p> <p>【釜石保健所】(下以外は脳血管疾患の予防に同じ) ・釜石地域糖尿病腎症重症化予防事業に係る実態調査アンケート(R3) 管内医療機関 24箇所 ・企業対象体験型健康づくり教室の開催 H30 10回406人 ・生涯現役！カラダづくりシンポジウムの開催 H30 1回300人 ・生涯現役！ヘルシーウォーキングの開催 H30 1回200人 ・次世代の健康づくり関係者連絡会の開催 H30 1回26人 ・企業の健康経営の支援と働く世代の健康づくり推進を目的とした「企業対抗！健康トライカップ」の開催(R1) ・特定健康診査・保健指導フォローアップ事業の開催(R1)</p>		

現計画（2018～2023）における進捗について

資料 2-1

重点 取組	課題(計画 策定時)	主な取組 (計画策定時)	H30～R5における取組実績(実績数値は最新のもの)	現状と次期計画 における方向性	参考データ
2 糖 尿 病	【糖尿病の医療体制】 ○ 糖尿病の悪化の防止やその合併症の予防のためには、血糖の管理を指導する医師等が不可欠であるほか、糖尿病専門医の確保が求められています。 ○ 糖尿病足病変に関する指導が可能な医療機関の拡充が求められています。 ○ 糖尿病の合併症による糖尿病性腎症の重症化予防への取組が求められています。	○ 糖尿病専門医師の配置に向けた要請活動や招請活動の展開のほか、糖尿病専門薬剤師などの育成を図っていきます。 ○ 専門医療機関とかかりつけ医とによる病診連携とともに、糖尿病患者の歯科治療におけるかかりつけ歯科医との連携を図っていきます。 ○ 糖尿病が重症化するリスクの高い医療機関未受診者、糖尿病又は糖尿病性網膜症治療中断者に対し、手紙や電話、個別面談や戸別訪問等による受診勧奨の取組を促進します。	【釜石医師会】 ・専門医療機関とかかりつけ医との病診連携及び、役割分担等を推進するための医療関係者への糖尿病診療のレベルアップを目的とした研修会の実施。 ・R4年6月13日～講師:岩手医大内科 糖尿病・代謝・内分泌内科分野講師、武部典子先生 ・R5年2月2日～講師:岩手医大内科 糖尿病・代謝・内分泌内科分野、石垣泰教授(岩手県委託事業 ～ 兼糖尿病性腎症疾病管理強化対策事業) ・R5年2月28日～講師:岩手医大内科 腎・高血圧内科分野、旭浩一教授(岩手県委託事業 ～ 兼糖尿病性腎症疾病管理強化対策事業)以上、3回開催 ・産業保健センターの事業として職場の健康診断結果を精査。必要に応じ生活習慣の改善や治療への勧奨を行った。(H30)	【方向性】 ・専門医の確保や病診連携、受診勧奨を引き続き行う必要がある。	・令和5年7月現在の管内の糖尿病性腎症重症化予防対策に係る協力医療機関:6機関
			【釜石歯科医師会】 ・歯周病との関連について歯科医師会で研修会 ・令和7年度予定の国民皆歯科検診に備えての釜石市の健診事業(NTTデータ分析中) ・釜石市と国民健康保険被保険者の健診事業(歯周病を中心に)R5.9月からの予定 ・歯周病と糖尿病の関係に関する勉強会の実施(H30) ・釜石地域における歯科と糖尿病に関するパンフレットの作成(R1)		
			【釜石薬剤師会】 ・釜石市の保健師対象に糖尿病治療薬について講演(H30) ・糖尿病専門薬剤師の育成(R1) ・薬局窓口での患者さんへの啓蒙活動(R1)		
			【県立大槌病院】 ・糖尿病教室の開催(R4.4回) ・糖尿病透析予防指導の実施(R4.38件) ・糖尿病予防管理(フットケア)の実施(R4.39件) ・糖尿病療養指導士資格更新1名(R2) ・糖尿病重症化予防(フットケア)資格取得1名【県立大槌病院】(R2) ・糖尿病指導の経験を有する看護師の育成(H30) ・糖尿病予防及び重症化を防ぐ指導の継続的な取り組み(H30)		
			【独立行政法人国立病院機構釜石病院】 ・糖尿病に関する学術講演会や新薬・治療法の情報を収集し、スタッフ並びに患者さんに提供している ・市民公開講座を開催し、糖尿病の予防について講義した。(H30) ・外来診療を通じて、血糖のコントロールや減塩の重要性について説明した。(H30) ・管理栄養士の協力も得て糖尿病のコントロールのための食事指導を継続した。(H30) ・釜石医師会主催の糖尿病対策推進協議会に参加し、糖尿病と糖尿病治療に関する知識の共有とアップデートを行った。(H30) ・第17回市民公開講座で「元気で長生きするための栄養学講座」を開催し、減塩や糖尿病予防のための栄養学や生活のコツについて講義。(R1)		
			【せいいつ記念病院】 ・健診にての糖尿病を早期発見、加療に努めている。 ・重篤者に関しては、入院にて栄養管理及び加療を行っている。 ・腎障害者には、泌尿器科との連携も行っている。(透析加療も含める) ・専門医の確保に向けた招聘活動(内科・透析)(H30) ・管理栄養士による栄養指導(H30) ・地域医療機関との連携強化(H30) ・引き続き医師の招聘活動を展開(R1) ・医師確保により、糖尿病教室の再開(R1) ・透析センタースタッフの確保(看護師・技士)(R1)		
			【釜石大槌行政事務組合消防本部】 ・救急搬送状況 令和4年度総搬送人員2,290人中8人が救急救命士による血糖測定の結果「低血糖」で、救急救命処置(ブドウ糖投与)が実施された。		
			【大槌町健康福祉課】 ・糖尿病未治療者への受診勧奨 ・糖尿病治療中断者への受診勧奨		
			【釜石・大槌地域保健医療推進会議】 ・OKはまゆりネットを活用した専門医療機関とかかりつけ医との病診連携及び、役割分担等を推進するための医療関係者への糖尿病診療のレベルアップを目的とした研修会実施への協力。		

現計画（2018～2023）における進捗について

資料 2-1

重点 取組	課題(計画 策定時)	主な取組 (計画策定時)	H30～R5における取組実績(実績数値は最新のもの)	現状と次期計画 における方向性	参考データ
3 在宅医療	<p>○ 医師や看護師などの医療職及び介護福祉士などの福祉職の人的資源が不足している中、多職種による連携の強化、充実が求められています。</p> <p>○ 在宅療養者が安心して生活を送ることができるよう、医療・介護に加えて、自治会や町内会、NPO、民生児童委員等の関係団体と地域住民等が連携した日常の療養支援を行う包括的なネットワークの構築が求められています。</p>	<p>○ 医科や歯科、薬科等の多職種連携の充実を図るため、在宅医療連携拠点「チームかまいし」等との連携の強化、支援に努めています。</p> <p>○ ICTの活用による医療と介護が連携した、かまいし・おおつち医療情報ネットワーク「OKはまゆりネット」の運営基盤の強化や利用者の拡大等運営体制の整備等に取り組みしていきます。</p> <p>○ また、医療と介護の連携とともに、住まいや日常生活を支える地域包括ケアシステム構築の必要性等について普及啓発を図っていきます。</p>	<p>【釜石医師会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OKはまゆりネットの安定運営への協力 ・OKはまゆりネットを活用した多職種間の連携強化への協力 ・OKはまゆりネット登録患者増強への協力 ※参加登録者数(令和4年度末)～6,955件 ・加入機関向け操作説明会の開催(2回)(H30) <p>【釜石歯科医師会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームかまいし、釜石医師会、社会福祉協議会、介護支援専門委員、成年後見センターとの認知症患者さん在宅患者さんの歯科治療についてシンポジウム開催(釜石PIT) ・介護職の方とのスムーズな連携を再構築できる勉強会を開催予定 ・OKはまゆりネット活用について研修 ・介護施設と連携して入所者の健診、職員の方に口腔衛生について講義 ・岩手県歯科医師会主催在宅医療人材育成研修会を釜石で開催し、多職種の方々と勉強会を開催した。(H30) ・左記のセミナーの結果を踏まえ、検討会を開催し、今後は多職種による症例検討会を企画。(R1) ・オーラルフレイルに関する勉強会の実施(H30) <p>【釜石薬剤師会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院薬剤師と薬局薬剤師の連携の継続 ・外来化学療法への資質向上を目的とした薬薬連携の継続(研修会の継続開催) ・多職種との連携の継続 ・地域医療ネットワークを活用し在宅医療連携の推進を行う ・釜石市地域包括支援センターと研修会を通じての連携推進 ・OKはまゆりネットの利用促進 ・患者のための薬局ビジョン推進事業のモデル地区として、病院薬剤師と薬局薬剤師の連携とケアマネと薬局薬剤師の連携を実施。(H30) ・チームかまいしと釜石薬剤師会合同で日本在宅薬学会にてポスター発表の実施(H30) <p>【県立釜石病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅療養後方支援病院届出 ・地域包括ケア病棟へのレスパイト入院の受け入れ ・在宅患者訪問看護指導料専門管理加算(褥瘡) ・OKはまゆりネット 操作説明会の実施 1回(H30) ・OKスクラムねっと 研修会実施 3回(H30)、情報共有シートと食形態スケールの運用開始(R1) <p>【県立大槌病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OKはまゆりネットを活用した施設利用 ・OKスクラムねっと事業参加者による多職種連携活動の実施 ・ターミナルケア対象者を中心とした訪問診療、訪問看護の充実(R4.訪問診療43件、訪問看護16件) ・訪問看護マニュアル、パンフレットの改訂 ・OKはまゆりネット操作研修会開催(H30) ・地域包括ケア病床導入による在宅復帰に向けた多職種連携の実施(H30) <p>【独立行政法人国立病院機構釜石病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・釜石ファミリークリニックの在宅医療と連携し、重症化した場合に入院対応するなどしてバックアップしている。また、一般診療や市民公開講座においても在宅医療推進について説明している ・外来診療を通じて在宅医療へのサポートを行った。(H30) ・家族の入院に合わせたレスパイト入院などのサポートを行った。(H30) <p>【せいいつ記念病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・釜石ファミリークリニックと連携し、必要に応じ入院受け入れを行っている。 ・在宅医療実施(H30) ・老人保健施設との連携(H30) ・在宅医療介護連携拠点事業推進協議会出席(H30) ・在宅医療介護連携体制検討会出席(H30) ・レスパイト患者の受入(H30) ・チームかまいしとの連携(H30) ・OKスクラムねっと研修会等への参加(R1) 	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩手県の平均を大きく上回っているものの、全国平均を下回っている。 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・釜石圏域の訪問診療の取組を継続する必要がある。 ・「OKスクラムねっと」、「OKはまゆりネット」、「在宅医療をにいて積極役割を担う医療機関」及び「在宅医療に必要な連携を担う拠点」と連携し、包括的かつ継続的な在宅医療の構築、人材育成及び地域住民の普及啓発を図る必要がある。 ・国が定める「疾病・事業及び在宅医療に係る医療体制構築に係る指針」により、次期医療計画において、圏域に「在宅医療をにいて積極役割を担う医療機関」及び「在宅医療に必要な連携を担う拠点」を位置づけるとともに、これまでの取組と連携を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医師偏在指標(R2.3岩手県医師確保計画) <ul style="list-style-type: none"> 全国 指数239.8 岩手県 指数172.7(46位) 釜石圏域 指数119.3(全国335二次医療圏中326位) ・介護職員の有効求人倍率(R4.7) <ul style="list-style-type: none"> 岩手県 全産業1.18 介護職2.19 釜石圏域 全産業 1.21 介護職2.69 ・令和3年度の釜石圏域の訪問診療の実施状況(人口10万人あたりレセプト件数) <ul style="list-style-type: none"> 全国 8,368.0 岩手県 4,253.2 釜石圏域 7,630.8(県内1位) ・かまいし・おおつち医療情報ネットワーク「OKはまゆりネット」の登録者数(延べ) <ul style="list-style-type: none"> 平成30年3月末現在 4,097人 令和5年6月末現在 7,020人
			<p>【釜石厚生病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神科訪問看護(R4延べ24件)、訪問看護ステーション等との連携 ・チームかまいし関連研修会等参加 ・訪問診療対応の医療機関への紹介・逆紹介 <p style="text-align: right;">10/15</p>		

現計画（2018～2023）における進捗について

資料 2-1

重点取組	課題(計画策定時)	主な取組(計画策定時)	H30～R5における取組実績(実績数値は最新のもの)	現状と次期計画における方向性	参考データ
3	在宅医療		<p>【釜石のぞみ病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OKスクラムねっと研修会等へ参加している(H30 研修会交流会3回、世話人会への職員派遣) ・釜石ファミリークリニックと連携している ・レスパイト入院を受け入れている <p>【釜石広域介護支援専門員連絡協議会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多職種での事例検討会の開催を行政や他団体と企画、実施(多職種による連携の強化、充実)R4は33名参加。 日時 : 令和5年8月10日(木)13:50～16:50 場所 : 釜石PIT 内容 : 「第6回ささえる事例検討会in釜石」 講師 : イーハート地域包括支援センター 社会福祉士 鈴木智之氏 一般社団法人 岩手介護コミュニティ協会 代表理事 藤原 陽介 氏 事例発表者: ニチイケアセンター釜石(予定) 主催 : かまいしユニゾン・釜石市地域包括支援センター 共催 : 釜石広域介護支援専門員連絡協議会・岩手県介護福祉士会宮古広域支部 ・OKスクラムネットへの参加 ・令和4年度 第3回OKスクラムねっと研修会にパネリストとして会員が参加 「今、多職種連携の10年を振り返る」 これまでの連携の歩みを振り返りに、各職域(医科、歯科、薬剤、介護)の方と各5分程度にて介護分野の発表と参加者とのディスカッションに参加。 ・釜石・大槌地域医療連携推進協議会(OKはまゆりネット)の参加 <p>【釜石リハビリテーション療法士会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大槌町(R3) <ul style="list-style-type: none"> 1)「お元氣教室」への参加 ・釜石市、大槌町地域ケア個別会議への参加(R3) ・釜石市「自宅でできる運動パンフレット」へのアドバイス(R2) ・大槌町 介護予防教室「お元氣教室」への参加・協力(R2) ・イオンでの「かいごの日」イベント(介護職との連携イベント)感染予防の観点から中止とした。(R2) ・釜石市・大槌町「地域ケア個別会議」への参加(R2) ・個別の「住環境アドバイザー」へのアドバイス(R2) ・釜石市「いきいき100歳体操」への協力(H30) <p>【釜石大槌行政事務組合消防本部】(R2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「チームかまいし在宅医療・救急医療推進事業打ち合わせ会」(4回開催)へ消防本部消防課長が出席し、釜石市の取組みをはじめ、先進事例セミナー、県内消防の動向などについて情報を共有した。また、傷病者の意志に沿った救急現場における心肺蘇生法の実施について、病院や行政等が進めるACP(人生会議)の普及啓発と並行し、「心肺蘇生法に関する指示書」及び「DNARプロトコル※」の作成について、釜石地域メディカルコントロール協議会と協議のうえ実施に向けた取組みが課題となっている。 (※DNAR: 蘇生術阻止の意味で、根本的な治療法が残されていない場合、家族の了解のもと患者が心肺停止となってもCPRをはじめとした治療をしない担当医の指示) <p>【釜石市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームかまいしによる一次～三次連携の実施 (ニーズのマッチングによる複数職種連携 等) ・OKはまゆりネット NPO法人釜石・大槌地域医療連携推進協議会が運営する医療情報ネットワークの構築・運営の支援を行った。 (各種会議への出席及び研修会開催支援) 参加登録者数 R4延6,955名 参加医療機関・介護事業所数 R478機関 ・OKスクラムねっと (各種会議への出席及び研修会開催支援) 釜石・大槌地域医療介護福祉多職種連携の会 研修会 3回実施、世話人会6会実施(H30) 		

現計画（2018～2023）における進捗について

資料 2-1

重点取組	課題(計画策定時)	主な取組(計画策定時)	H30～R5における取組実績(実績数値は最新のもの)	現状と次期計画における方向性	参考データ
3 在宅医療			<p>【大槌町】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・釜石・大槌地域医療連携推進協議会に対し運営費補助金を拠出 ・OKはまゆりねっと及びOKスクラムネットともに連携を実施(H30,R1) <p>【釜石・大槌地域保健医療推進会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OKはまゆりネットの安定的な運営 ・OKはまゆりネットを活用した多職種間の連携強化への協力 ・OKはまゆりネット登録患者増強 ※参加登録者数(令和4年度末)～ 6,955件 <p>【釜石保健所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OKはまゆりネット、OKスクラムねっと運営、事業への参加 ・チームかまいしが開催する協議会への出席(オブザーバー) ・OKはまゆりネットの利用拡大に係る普及啓発(リーフレット、冊子の作成、配布) ・職域を越えた栄養士の連携強化を目的とした「釜石地域栄養士連絡会」の開催(R1) 		

現計画（2018～2023）における進捗について

資料 2-1

重点取組	課題(計画策定時)	主な取組(計画策定時)	H30～R5における取組実績(実績数値は最新のもの)	現状と次期計画における方向性	参考データ
4 認知症	<p>【認知症の予防・早期対応】</p> <p>○ 認知症の人を見守り、支え合う地域づくりを進めるため、認知症サポーター養成講座の実施により、認知症サポーターの養成に努めます。</p> <p>○ 認知症の気づき段階からの地域包括支援センター等への相談など、早期対応の必要性について、市民公開講座等により住民への普及啓発を図っていきます。</p> <p>○ もの忘れなどの初期段階での気づきや相談等の遅れが、認知症の疾患症状の進行につながることから、認知症に関する正しい知識を持ち、早期に気づき、早期に地域包括支援センターへの相談や専門医療機関への受診等を行うことの重要性を周知することが必要です。</p>	<p>○ 認知症の人を見守り、支え合う地域づくりを進めるため、認知症サポーター養成講座の実施により、認知症サポーターの養成に努めます。</p> <p>○ 認知症の気づき段階からの地域包括支援センター等への相談など、早期対応の必要性について、市民公開講座等により住民への普及啓発を図っていきます。</p>	<p>【釜石医師会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民を対象に、認知症への理解を深めることを目的とした市民公開講座の開催 ・医療、介護が一体となった認知症患者への支援体制を構築することを目的に、多職種を対象とした研修会の実施。～R4年10月13日、もりおか心のクリニック、上田均先生を講師に実施済。(岩手県委託事業 ～ かかりつけ医認知症対応力向上研修事業) <p>【釜石薬剤師会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地域包括支援センターや認知症初期集中支援チームとの連携 ・薬局内での患者さんへの啓蒙活動 ・学術講演会等への参加 <p>【県看護協会釜石支部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会「認知症高齢者に寄り添う看護」 講師：県立大船渡病院認知症看護認定看護師 志田 公紀氏 日時・場所：令和3年12月9日(金)18:00～19:30 県立釜石病院 一部ZOOM開催 ・認知症の看護ケア・入院後の環境の変化の対応とアセスメントについての研修会開催(H30) <p>【県立釜石病院】※支援と共通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・包括支援センターとの連携 ・専門的スキルを持った看護師の育成 ・認知障害のある患者への看護計画の立案・実践・評価、身体抑制解除への取組(H30) <p style="padding-left: 20px;">計画立案 100%(302件) 抑制解除率 60%(達成率100%)</p> <p>【県立大槌病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院内認知症研修会の開催 ・他職種連携による個別離床活動 ・院内アクティビティケアの継続 ・各市町村包括支援センターとの積極的な電話相談の実施 ・大槌町包括支援センターと電話相談実施(H30 76件) <p>【独立行政法人国立病院機構釜石病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常診療並びにポスターなどの掲示、市民公開講座での食の重要性への取り組みなどを提示し啓蒙している ・市民公開講座を開催し、脳の機能や認知症について説明し、予防や早期発見のコツを講義(H30) ・外来診療を通じて認知症の予防の重要性について説明した。(H30) ・第17回市民公開講座で「元気で長生きするための栄養学講座」を開催し、認知症予防のための栄養学や生活のコツについて講義。(H30) <p>【釜石厚生病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネージャーほか関係機関との連絡調整(R2) ・外来・入院診療実施(R2) ・介護サービス等の利用案内、相談受付(R2) ・院長による講演(認知症の人とあゆむ講演会)(H30) <p>【釜石大槌行政事務組合消防本部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大槌町で開催された「地域包括ケア会議」(H3.2.27)での認知症対策について、所属長(大槌消防署長)が出席し、認知症対応に関する研修を受講し、所属署員へ周知を図った(R2) 	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県の第1号被保険者に対する認知症高齢者の割合は増加。 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーターの養成及び早期対応の必要性について引き続き住民への普及啓発を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1号被保険者数 平成29年度 400,712人 令和2年度 408,246人 ・県の認知症高齢者 平成29年度 47,124人 令和2年度 49,673人 ・第1号被保険者に対する割合 平成29年度 11.8% 令和2年度 12.2% ・要介護(要支援)認定者に対する割合 平成29年度 61.3% 令和2年度 62.5% ・認知症サポーター養成数【釜石管内】 令和元年度 5,372人 令和2年度 5,812人 令和3年度 6,301人 令和4年度 6,648人

現計画（2018～2023）における進捗について

資料2-1

重点取組	課題(計画策定時)	主な取組(計画策定時)	H30～R5における取組実績(実績数値は最新のもの)	現状と次期計画における方向性	参考データ
4 認知症			<p>【釜石市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座:11回開催、延べ258人参加 (内訳)地域:5回開催、延べ45人参加 小中学校:6回開催、延べ213人参加 ・認知症サポーター・ステップアップ講座:3回開催、延べ87人参加 ・チームオレンジ・はまぼうふう結成: R4年7月6日/構成員31人 ・チームオレンジ・こさの結成: R4年12月22日/構成員41人 ・チームオレンジ・こさのジュニア結成: R5年2月7日/構成員41人(小佐野小学校5年生) ・もの忘れに関する相談会:8回開催、延べ28人参加 ・チームオレンジ設置後の支援 ・認知症初期集中支援チーム対応(H30 サポート医1人、保健師1人、介護福祉士2人) ・認知症サポーター・フォローアップ講座: R2 1回開催、21名参加 ・認知症予防教室(H30 開催数:8回、参加者数:158人) <p>【大槌町】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内小学校2校を訪問し、4年生の授業時間を1時間養成講座に充てた。R4.89名 ・認知症サポーター養成講座の開催(2回 新規登録者68人)(R3) ・認知症初期集中支援チーム対応 0件(チーム員会議1回(コロナのため書面開催) チーム員訪問0回) (R3) ・岩手県立大槌病院と電話相談実施(H30 76件) ・岩手県立大槌病院と在宅復帰に向けた多職種連携の実施(H30) <p>【釜石市社会福祉協議会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームオレンジ・はまぼうふう(鶴住居地区) R4.7.6 結成 以後、3か月に1回のペースで集いを開催。 ・チームオレンジ・こさの(小佐野地区) R4.12.22 結成 ・チームオレンジを核にした地域の見守り・介護予防の推進、支え合い活動の検討(オレンジカフェや買い物支援など) ・地域や小中学校での認知症サポーター養成講座への参画(釜石市地域包括支援センターと協働) ・釜石市と共同 ・認知症サポーター養成講座(R3) ・認知症サポーターフォローアップ講座(R3) ・チームオレンジ結成に向けた打合せ会:2回開催、延べ R3 45人参加(1回目: 18人、2回目 17人) ・もの忘れに関する相談会:R3 9回開催、延べ41人参加 <p>【釜石・大槌地域保健医療推進会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OKはまゆりネットを活用した認知症患者の支援に係る関係者の支援体制構築への協力。 <p>【釜石保健所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症への知識や理解を深めるための普及啓発 		

現計画（2018～2023）における進捗について

資料 2-1

重点 取組	課題(計画 策定時)	主な取組 (計画策定時)	H30～R5における取組実績(実績数値は最新のもの)	現状と次期計画 における方向性	参考データ
4 認知症	<p>【認知症の支援】 ○ 認知症の人が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、どこに住んでいても鑑別診断や適切な医療を受けられる体制を構築することが必要です。</p>	<p>○ かかりつけ医の認知症対応力向上研修や認知症等に関する相談など、地域において認知症の人への支援体制構築の役割を担う認知症サポート医の支援に努めます。 ○ 「認知症初期集中支援チーム」や「認知症地域支援推進員」の効果的な運営や運用により、認知症の人の家族等に対する支援に取り組んでいきます。</p>	<p>【金石医師会】 ・「認知症初期集中支援チーム」運営への協力 ・認知症サポート医の養成 ・地域住民を対象とした認知症への理解を深めることを目的とした市民公開講座の実施した。(H30) ・医療・介護が一体となった認知症患者への支援体制を構築することを目的に多職種を対象とした研修会を実施した。(H30)</p> <p>【金石歯科医師会】 ・介護施設での認知症と咬合(噛み合わせ)の関連性、感染症に有効な口腔衛生を説明 ・個別に各歯科医院訪問歯科での義歯の取り扱いを説明 ・認知症の方とその家族、またはお世話いただく関係者への認知症患者さんの治療についての流れを理解していただくための仕組みの構築 ・各歯科医院が囑託している介護施設への健診ならびに口腔衛生指導を行なった。(R3) ・医師、介護支援専門員より紹介された患者さん宅、介護施設への訪問診療(R3) ・歯科医師認知症対応力向上研修の実施(H30)</p> <p>【金石薬剤師会】 ・薬剤師認知症対応力向上研修の実施(H30)</p> <p>【県立大槌病院】 ・各市町村包括支援センターとの積極的な電話相談の実施 ・認知症ケアの研修(院外2名派遣、院内研修実施H31.2.21)</p> <p>【独立行政法人国立病院機構釜石病院】 ・外来診療を通じて認知症患者さんの日常生活の支援や治療のサポートを行っている</p> <p>【せいいつ記念病院】 ・認知症加療も外来可能な患者は診療している。 ・重篤な時は入院加療も行っている。また、専門医紹介も行っている。 ・在宅支援センターによる普及啓発(H30) ・老人保健施設・グループホームとの連携(H30) ・居宅サービスの実施による在宅支援(H30)</p> <p>【金石厚生病院】 令和3年4月1日に岩手県認知症疾患医療センター(連携型)を設置 以下について実施 ・鑑別診断、初期対応(20件) ・専門医療相談(延べ200件) ・身体合併症、周辺症状への急性期対応 ・情報発信、普及啓発</p> <p>【釜石市】 ・認知症カフェ: 2か所、合計15回開催 ・認知症の人とあゆむ会(家族会)支援: 介護者のつどい R4. 4回開催、認知症カフェ R5.5回開催 ・認知症高齢者SOSネットワーク事業(H30 登録者数88人)</p> <p>【大槌町】 ・認知症初期集中支援チームによる事例検討 R5.1件 ・認知症カフェ(コロナのため開催せず) ・行方不明高齢者等早期発見事業(おおつち見守りSOSネット)(登録者9人 協力機関36事業者) ・認知症ご近所みんなで声掛け訓練、認知症井戸端会議(コロナのため開催せず)</p>	<p>【現状】 ・認知症サポーターによる「チームオレンジ」が令和4年度に結成し、高齢者サロンや声かけ、見守り活動に取り組んでいる。</p> <p>【方向性】 ・認知症の人が適切な医療を受けられる体制の構築や身近な生活支援に繋げる仕組みづくりへの支援が必要である。</p>	<p>・認知症サポート医数 3名(公表数) ・チームオレンジ設置数 令和4年度 2か所</p>